

カリヲ以テ、モノヲテラシテ、當理不擾、達事無滯、人欲ノ私ニヒカレテ、一點モ私欲ナクバ、智モ明カニナランゾ、智者樂水ト云テ、智者ト云モノハ、智慧ヲメグラシテ、世ヲ治ルコト、サツサト水ノ流テヤマザルガ如シ、故ニ水ヲタノシムゾ、マタ智者動ト云ルハ、智者ト云モノハ明徹ニシテ、萬事ノ理ニヨク達シテ、氣轉ガマハルホドニ、一方ムキニナク、チヤツチヤツト事ノ變ニ應ズルホドニ動ト云ゾ、○下略

〔彝倫抄〕智トハ智之理、心ノ別トテ、是非邪正ヲヨクシルヲ云フナリ、ヨク萬物ノ義理ヲ、シルコト肝要ナリ、是非ヲヨクワキマヘタラバ、ナドカ聖人ノ道ノ、貴キコトヲシラザランヤ、

〔五常訓 五〕智

知は増韻心有所知也といへり、知は心の明なり、和訓にはさとるとよむ、是非をてらす心の光なり、心明らかにして、人倫事物の道理に通じ、是非善惡をわきまへしりて、まよはざる徳なり、仁義禮も智によりて、其の理明らかにして行はる、智なければ道理くらくして善心あれども、行ふすべをしらず、あやまりてひがことのみ多し、周子は通ずるを知と云ふといへり、萬理に通ずるなり、朱子は智は分別是非の理と云へり、分別とは、わかちわかつなり、心中に善惡をわかちわきまふるを云ふ、是非とは事にのぞみては、是を是とし、非を非とするを云ふ、智は性なれば、あながちに外にむかひて、とくべからずといへども、用につきてとかざれば、智の體も明らかならず、孟子は智之實、知斯二者弗去是也と説き給ふ、智の真切なる所は、孝弟の道を知りて、すてすてかたかく守るを云ふ、道理をしりて、又よく其の道理を守りて失はざるなり、しりても守らざれば眞にしれるにあらず、智は五行においては水に屬す、水は清く明らかにして、かゞみとすべし、智のあきらかなるに似たり、又萬物は皆水のうるほひ通じて生ずることく、萬事智にあらざれば、道理通せずして行はれず、朱子四書の註の中、仁義禮には明解あり、智の字に註なし、故に朱子の後、智